

# 神吉八幡神社国恩祭並びに

## 拝殿等御修造工事趣意書

時下、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、当神社の護持運営に多大のご協力を賜り、誠にありがとうございます。神吉八幡神社は氏神として氏子地内の『五穀豊穡』『産業発展』『家内安全』を常に見守っておられます。

さて、東播磨に受け継がれております全国的にも珍しい『国恩祭』は、天保四年（一八三三年）に始まりました。天保三年に起きた大飢饉とそのために生じた一揆や荒廃した人心を治め繁栄を願って行われました。この大祭は、旧加古、印南の二つの郡で一社ずつ輪番で、国の繁栄と平和を願って斎行し現代に至るまで引き継がれています。兵庫県神社庁加古支部・伊奈美支部に祀る天神地祇を奉斎し全神職が奉仕しています。

当神社は輪番により平成二十九年春に国恩祭を務めることになっております。各神社の氏子や崇敬者の方々は十一年に一度の大祭に浄財を集め社頭整備や社殿修造を行い、国の繁栄と共存共栄を祈願して参りました。この意義深く伝統的な大祭を皆様方のご協力によりまして何とか厳粛に斎行したいと念願致しております。

当神社は称光天皇の応永三年（一三九七年）に創立され、その後二度も社殿を焼失しましたが氏子・崇敬者の方々の熱意により天和三年（一六八三年）五月二十四日に再建されてより、三百三十年余りの歳月を経ており、拝殿の柱・梁の腐蝕や老朽化が著しく、年数的にも修造が必要です。また、境内の南側の石垣は樹木の根が張り膨らんでいる箇所が多く、崩落する危険性が極めて高い状況です。

つきましては、総代一同及び神職深謀熟慮の末、皆様方のご寄進により国恩祭記念事業として拝殿及び石垣の修造をお願いいたしたく存じます。

拝殿と石垣の損傷状況と国恩祭の趣旨を十分ご理解下さいまして諸事出費のかさむ折から、誠に恐縮ではございますが、左記事業費等ご賢察の上格別のご協力を伏してお願い申し上げます。

平成二十六年四月吉日

神吉八幡神社総代会長

神吉八幡神社総代

喜多 太見男

原 淳一・藤原雅史・田中一成・西川敏彦

喜多憲昭・岸本芳信・前田繁俊・永井英三

藤原憲一・宮本志郎・田中昌利・岡田忠好

麻原秀昭・松井大司郎・磯野哲男・菅原悦夫

高橋良孝・野村和秋・高橋俊郎・久保 寛

関本 明・野村公男・水碓安寛・西田福志

山下浩之

神吉八幡神社宮司

喜多山 一洋

### 記

一、	拝殿修造工事費	四千八百万円	}	計 八千万円
一、	石垣修造費	二千万円		
一、	国恩祭祭典費	五百万円		
一、	瑞垣・寄進者名板建立費	五百万円		
一、	設計費他	二百万円		